熊本地震から3年

復興に向かい 前へ歩み続けて

3度目の春

3月9日、南阿蘇中学校の卒業式。今年卒業したのは、村立3中学校が統合し平成28年4月に開校した南阿蘇中学校への初めての新入生で、3年前、熊本地震が発生した年に入学した生徒たちです。

彼らが成長し学び舎から巣立っていったように、この春で熊本地震からも3年の月日が経ちます。

復旧・復興に向かい、村も人も前へと歩みを進め続けています。

〈卒業生にインタビュー〉

南阿蘇中学校卒業式の日、2人の卒業生に3年間を振り返って話を聞かせてもらいました。

3年間を振り返って

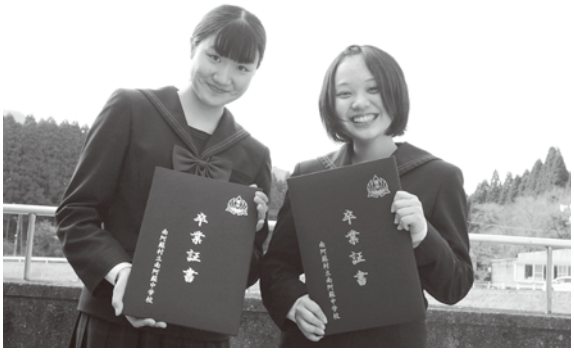
家入莉奈さんは、熊本地震によって自宅が大きな被害を受け、一時は県外の親戚の元へ避難しました。5月の連休明け、中学校の再開に合わせて村へ戻ると、しばらくは祖父の知り合いの別荘を借りて生活し、その後は住居を移した大津町からスクールバスでの通学を続けてきたそうです。部活動ではソフトテニス部のキャプテンを務め、「大変だったけど、積極性を高めることができました」と振り返ってくれました。

松永弥由さんは、震災後、1年次の終わり頃まで隣町の中学校へ通学しました。環境や人間関係の変化に馴染めず、つらく感じることもあったと言います。「(南阿蘇中学校へ)戻ってきた時は、『ただいま』って思いました」とはにかんで話し、学校がまた好きになったと思い返してくれました。

将来の夢に向かい

2人はこの春から県内の高校に進学予定。

将来の夢をたずねると、莉奈さんは保育士、弥由さんはイラストレーターになりたいと話してくれました。それぞれの目標や夢に向かってこれからも進んでいかれます。



松永 弥由さん

家入 莉奈さん

復旧関係工事

村道の復旧（県代行工事）

村道 ゴルフ場～湯の谷線

整備後

整備前

県代行工事で復旧を進め、
平成30年11月に全線復旧が完了しました。

村道 喜多～垂玉線

地獄垂玉温泉へ通じる村道 喜多～垂玉線は、同じく県代行工事で復旧を行っており、平成31年4月の暫定開通に向けて急ピッチで工事を進めています。

土石流災害を防止 砂防えん堤（てい）

熊本地震やその後の豪雨によって土砂災害が発生したことを受け、県は砂防えん堤の整備を進めています。

村内では12カ所で整備が進められており、そのうち、長野、東下田、中松など8カ所の現地見学会が2月23日に実施されました。当日は住民など40人が参加し、2グループに分かれて現場を見学。見学会を主催した南阿蘇地区集中プラント安全衛生協議会や県の職員などが説明を行いました。

見学会時点で、説明された8カ所と立野地区の3カ所は、3月末までに完成する見通しとのことでした。

砂防えん堤（砂防ダム）とは？
谷川や山の斜面などに設置される構造物。大雨などで土石流などが起きた時には、大きな岩や木などを留めたり土砂が一気に流出するのを防いだりし、下流や山麓の被害を軽減する。

長野地区に建設されている、長さ271メートル、高さ14.5メートル砂防えん堤（三王谷川2）

南阿蘇鉄道 復旧ニュース！

西鶴山の採掘およびトンネルの撤去が完了

昨年3月3日に着工した南阿蘇村立野地区の犀角山およびトンネルの工事が順調に進み、写真のとおり山の掘削と撤去が完了しました。

現在は、中松駅から立野駅の間で線路の軌道整備工事や擁壁などの復旧工事が進められており、1日も早い南阿蘇鉄道の全線復旧に向け、段階的に復旧工事が行われている状況です。

現在（復旧工事中）

撤去工事前

復活へ 出発進行！

3月10日には南阿蘇鉄道復活祭が行われ、今年初めてのトロッコ列車が高森駅から出発しました。

トロッコ列車は現在、1日2往復で運行中（高森駅・中松駅間）。乗客が見込まれる春・夏休みやゴールデンウィーク期間は3往復に増便されます。

南阿蘇鉄道の復旧状況については、今後も随時お知らせいたします。

住まいの再建　～インタビュー～

乙ケ瀬区で農業を営み牛を育てていらっしゃる藤本義雄さん、キヨ子さんご夫婦。熊本地震で倒壊した自宅を建て直し、今年の2月に仮設住宅から新居への引っ越しを終えられました。

震災後は避難所や仮設住宅から自宅へ通い、日中は家の片付けや牛の世話をして夜は避難所へ戻る日々の中、昨年11月に再建された自宅。新居へ初めてやってきたひ孫さんは「壊れた家を思い出すね。懐かしいね」と話したそうで、藤本さんご夫婦もお子さんやお孫さん、ひ孫さんの訪問が嬉しいと笑顔を見せられます。

震災から3年、今から先楽しみなことはなんですかと尋ねると、「被害を受けた田の整備が進んだら、また苗を植えたい。受け継いできた土地を荒らさないよう、自分たちが健康でやっていくことですね」と話してくださいました。

藤本 義雄さん
キヨ子さん

今村 憲二さん
芳子さん

第八駐在区でブルーベリーや山菜などを育て、農業を営まれている今村憲二さん、芳子さんご夫婦。

震災で基礎が大きくずれてしまった自宅は大規模半壊の判定。地震直後は娘さんの元へ避難し、10月に仮設団地へ移られました。一時は転居も考えたそうですが、息子さんの「郷のないのは寂しい」という言葉や近所の皆さんに引き留められ、自宅の再建を決断。昨年6月、新しく建てる住居と土地を担保にすることによって少ない負担で住まいの再建ができる「リバースモーゲージ」という高齢者向けの制度を利用し、建て直した家へ帰宅されました。

震災から3年、現在の楽しみをたずねると、「春野菜も植えないといけないし、グラウンドゴルフも楽しみです」と芳子さん。憲二さんは、「これで毎日、二人で晩酌しますよ」と自家製のブルーベリーを漬けた綺麗な紫のお酒のボトルを見せてくださいました。「今は幸せいっぱい」と、寄り添って笑顔で写真に写ってくださったお二人です。

住まいの整備

村 災害公営住宅　馬立団地

住まいに大きな被害を受けた被災者に安定した生活を確保してもらうため、災害公営住宅の整備が進められています。

2月に完成した下西原第1団地（加勢区）28戸に続き、馬立団地（立野区）40戸が完成。3月22日に落成式が行われました。

村では全体で94戸の災害公営住宅を整備する計画で、今年の10月までには残る下西原第2団地（加勢区）16戸、長陽西部団地（黒川区）10戸が完成する予定です。

災害公営住宅：木造、平屋　40戸
集会所：木造、平屋　約80平方メートル

地域と人

「地域の灯りに」　大きな一歩

河津 誠さん
謙二さん
進さん

熊本地震とその後の豪雨による土砂災害で宿泊棟や進入道路に大きな被害を受け、以降営業休止中の「地獄温泉清風荘」。経営者の河津誠さん、謙二さん、進さんのご兄弟は、営業再開に向けてたゆまず歩み続けています。2月27日には「地獄温泉復興プロジェクト」起工式が本館前で執り行われ、再建への更なる大きな一歩を踏み出しました。

「地域にも村の観光施設にも、まだまだ厳しい状況のところがある。復興において自分たちが灯台のひとつになり、この灯りを目指してもらえたら」と誠さん。

災害にも動じずに湧き続けている「すずめの湯」は、4月からの入浴再開に向けて新しい施設へと生まれ変わる工事が進んでいました。『痛い、弱い、苦しい』に寄り添う湯治の湯。本質はそのままに新しい風を取り込みながら、長く続いてきた歴史をこれからも繋いでいかれます。

地域をつないでいく

沢津野地区の協議会で3月まで協議会長を務めてきた西島義幸さん。任期は終わっても「地域の若い人たちが動いていくきっかけを作りたい」と公民館で地区のこれからについて意見を出し合う場を設け、震災で大きな被害を受けた沢津野地区の活性化への思いを持っておられます。

本震発生時、倒壊を免れた西島さんの自宅も庭に大きな亀裂が走り裏手の地面は崩落、屋内も住める状態ではなく、避難生活のかたわら息子さんと修繕をされたそうです。翌年の8月頃にようやく自宅へ戻られました。

震災後、地域の世帯数は減少。協議会で赴いた視察では地域住民による過疎地域の活性化の事例を知り、自分たちも地域の復旧・復興のために動いていこうとされています。

「地域の先輩方が水を引き、区役で整備し、行事などを続けてこの地域をつくり守ってきた。若者たちに知ってもらい、何を引き継いでいかなければならないか考えてみてほしい。そのための手助けができればと思っています」と語ってくださいました。

西島 義幸さん

心に留め置くこと

熊本地震が発生した時、大きな揺れと被害に「まさか自分たちの住む場所で」と思われた人は少なくなかったのではないでしょうか。道路や住まい、生活の復旧・復興は今も長い道のりの途中。前に歩みを進めながらも、日ごろの防災意識だけは置き去りにせず、自分にできる備えを心がけていきましょう。

熊本地震の経験を活かそう！
～暮らしのなかの防災セミナー～

■日時　4月13日（土）　午後1時～4時
■場所　モンベル南阿蘇店
（要予約 先着50人）
■内容
- 防災講話
- 防災カードゲーム
- 火を使わない明かりの作り方
- 役立つロープの結び方　など

主催：南阿蘇村　共催：モンベル南阿蘇店・あいおいニッセイ同和損害保険（株）
〈問い合わせ・申し込み〉総務課 防災・消防係　TEL（67）1111